

首都圏人材

地場企業と

マッチング

叡啓大（広島市中区）は、首都圏などで働いた経験がある人材を広島県内の企業とマッチングし、新規事業の創出や経営課題の解決などに取り組む「ひろしまバリューシフトプログラム」を始めた。客員研究員としてデジタル化などの分野で力を発揮してもらい、地元企業の成長につなげる。

（榎本直樹）

叡啓大、DXなど後押し

参加企業は森信建設（中区）トラベルボックス広島（西区）広島トヨペット（同）東洋電装（安佐南区）常石商事（福山市）の5社。10月から来年3月までの半年間、客員研究員を1人ずつ受け入れる。叡啓大は事前に参加企業を募って経営課題を聞き、マッチングした。森信建設は業務のデジ

タルトランスフォーメーション（DX）に取り組んでいる。新たなシステムの導入に合わせ、静岡県出身でIT関連業務の経験がある日置俊行さん（42）を受け入れた。森信秀一郎社長は「仕事の効率を高め、より働きやすい環境を整えた」と語る。日置さんは「仕組みを作るだけでな

く、現場の声を聞くことも大切。困り事にも対処しながら進めたい」と意気込む。東洋電装で介護関連事業の成長をサポートしている和泉谷貴仁さん（65）は東京の大手企業にシステムエンジニアとして勤め、2021年に広島県世羅町へUターンした。「今までの経験が少しで

も役に立てばうれしい。大学の知見も借りながら成果を出したい」と意気込む。叡啓大産学官連携・研究推進センター長の早田吉伸教授は「地域経済や企業の成長にはイノベーション（技術革新）やDXなどが重要だが、地方では人材が足りない」と指摘する。都市部の人材と地元企業のマッチングを通じ、客員研究員のキャリア向上やU・Iターンにもつながるとみる。



叡啓大に集まり、参加企業での取り組みを議論する客員研究員たち